

# ハイチ派遣国際救援隊 第2次要員 任務を引き継ぎ100日が経過 「油断せず、助け合って、真心支援」



## ハイチ大地震発生

2010年1月13日6時53分(日本時間)、首都ポルトープランスから南西約15kmを震源としてM7.0の規模の地震が発生。死者は、20万人以上、家屋損失が100万人以上、更に電気・水道をはじめとするインフラの破壊・停止という大変大きな被害を受け、被災者は、総人口の約4割に相当する約370万人に上った。各国は緊急援助物資等を送ったが、



治安の悪化により物資が引き届かない事態に。6日後の1月19日には、当面の復旧・再建・安定化努力を支えるためMINUSTAHの軍事及び警察部門の増員を決定する国連安保理決議が採択。日本は、1月25日にPKO部隊の派遣意思を国連に表明し、1月29日の国連からの正式要請を受けて2月5日にハイチ国際平和協力業務の実施に係る政令を閣議決定した。第1次要員は、2月6日から出国、第2次要員は、2月24日より順次出国した。

## MINUSTAHってなに？

武装反政府分子による治安の急激な悪化、政情の不安定化から、2004年6月MINUSTAHは設立。それ以前もハイチにおいて4度もPKOミッションが取組まれていたが経済成長や公共安全の分野で真摯な改革が「根付かなかつた」ため、①「安全かつ安定的な環境の確保」②「政治プロセス支援」③「人権の促進」を任務の柱に、多次元に取り組んでいる。MINUSTAHの最高責任者である事務総長特別代表は、エドモン・ミュレ氏。それぞれ任務毎、軍事部門、警察部門、文民部門で組織されており、軍事部門は、地震の以前は、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル等中南米の国を中心に18カ国約7,000名で構成。



交通事情

子供たちの笑顔が溢れている



フロリダ分遣班 下は調達業務



第2次要員は、3月19日に第1次要員から任務を引き継いで7月1日には約100日を迎えた。「油断せず、助け合って、真心支援」をスローガンに、MINUSTAHから要請を受け完了した任務は、25種(6月15日現在)に及ぶ。最も長い任務期間となったのは、ドミニカ国境道の補修作業である。この幹線道路は、首都ポルトープランスと隣国ドミニカ共和国を最短で結ぶ補給幹線であるが、雨季になると道路に隣接するアズウェイ湖の増水により、道路の冠水を招き交通が遮断される恐れがあった。この任務は、ミュレ国連特別代表からも大きな期待を寄せられ、護岸工事、道路の高上げ作業を約2ヶ月かけて実施した。言語習慣の違い、交通事情の違い、気候の違い(高い気温、湿度、雨季等)で多少の苦労はあるものの、全隊員「ハイチの国のため、被災された人々のために」という初心を忘れず汗を流した。また、5月8日及び6月16日の現地住民との文化交流会をはじめとして交流活動も継続実施している。併せて韓国をはじめ、他国の軍隊ともあらゆる分野・レベルでの交流を図っている。



碎石の積載



交通統制のもと碎石を卸す



ドミニカ国境道補修 左は実施前、右は実施後



ドミニカ国境道補修 左は実施前、右は実施後

## 今までのPKO派遣との相違

過去6回のPKO活動の実績はあるが、大きく異なる点は2つある。一つ目は、PKO派遣の目的が従来は他国PKO部隊のための後方支援が主だったのに対し、今回は、地震による被災者への支援活動であること。二つ目は、首都そのものが被災し、政府及びMINUSTAH等の機能が低下していることである。また日本との距離は最も遠く時差は、14時間になる。後方支援の拠点は、米国(フロリダ)及びドミニカ共和国にある。



子供と触れあう隊員

# 「油断せず、助け合って、真心支援」



市内ではあちこちに瓦礫が残っている



第2次要員第1波ハイチに到着(2月25日)



携行物品の掌握



重機による作業

## 倒壊した美術館の瓦礫除去



実施前 実施後

「防衛ホーム」は現地の隊員さんたちを応援しています。過酷な任務についている現地の隊員さんたちに、メッセージを送りましょう!もちろん匿名、イニシャル、暗号(?)でもOKです。大切は7月5日。たくさんのメッセージをお待ちしています。送り先は下記へ。  
E-mail:koho@boueinews.com FAX:03-3268-0710

現在ハイチでは、1等陸佐 福永正之隊長(前職:第27普通科連隊長兼釧路駐屯地司令 53歳)を核として「隊本部等」、1等陸尉 伊藤貢中隊長(南恵庭 第105施設器材隊 45歳)率いる「施設器材中隊」、1等陸尉 山本亮中隊長(岩見沢 第12施設群)率いる「施設中隊」、3等陸佐 福島章中隊長(帯広 第5後方支援隊)率いる「本部管理中隊」が活動しています。雪の降る北海道から真夏以上に暑いハイチへ派遣されて100日を迎えた第2次要員の活躍等を「防衛ホーム」2回に分けて掲載します。また、別欄にあります現地の隊員さんへの励まし等のメッセージは、紙面に載りきらなくても現地へは、間違いなく送りますので、沢山のメッセージをお願いします。

## ハイチってどんなところ

もともと日本人にとって馴染みの薄い国で、地震が発生するまでは知らなかったという人も多いのではないだろうか。日本より約13,000km離れたカリブ海にある。イスパノラ島の西側に位置し、ドミニカ共和国と国境を接している。首都であるポルトープランス以南は、熱帯サバンナ気候であり、乾季と雨季が存在する。各月の平均気温は、30℃以上で、暑いときには、50℃近くまで気温が上がる。湿度は、年平均で72%であり1年の大半が蒸していることを示している。6月から10月は、ハリケーンの発生が予想される。首都ポルトープランスには約100万人の人口を有しているが、過密化により国内避難民が増大している。国民の大部分は、アフリカ系黒人である。歴史的には1804年、世界初の黒人による共和国としてフランスから独立した。フランス植民地時代の影響が色濃く残り、言語もフランス語に近い。宗教に関しては国民の大部分は、アフリカのアニミズムにローマ・カトリックの儀式を混在させたブドゥー教を信仰している。国民総所得は、560ドル/人であり、いわゆる最貧国のひとつである。



地域の人たちはみんな人懐っこい



武道の展示 地域の人達は興味津々



子供たちの会唱



朝礼にてのラッパ吹奏



浴場の水質検査



テレビ電話で家族と会話



炊事 暑さに負けないように!